

令和5年度 学校自己評価表(報告)

学校運営方針		学校運営計画			
		豊かな人間性をめざして高い知性と確かな学力を養い、進路目標の実現を図るとともに、自主性と責任感を養い、基本的な生活習慣を確立させることにより、明るく爽やかな生徒を育成する。			
教育目標					
1 学校教育に関する法規の定めるところに従い、国際的視野に立ち、社会の変化に主体的に対応できる能力と態度を育成する。					
2 心身の調和のとれた成長・発展を目指し、豊かな心でたくましく生きていくことのできる人間を育成する。					
指導方針					
1 自主性の確立					
自分の考えをしっかりとつ習慣を身につける。					
ア 客観的、総合的に判断して、知性ある正しい行動ができるような習慣を養う。					
イ 高い価値を求める心情を育成する。					
ウ 自分で自分を律することができる強い意志をもつ。					
2 責任観念の養成					
自分の言動に責任をもつ生活態度を養う。					
ア 困難に耐え、自分の仕事を積極的に全うする気力をもつ。					
イ 働くことをいとわず、誰からも信頼されるよう心がける。					
ウ 規範意識を高め、明るい社会の建設に励みあう連帯感を養う。					
3 協力精神の育成					
相手の立場を考えて行動する心構えを育てる。					
ア 相手を敬い、理解し得るような社会性を養う。					
イ すすんで社会に奉仕する謙虚な心をもつ。					
ウ 正しいエチケットを身につける。					
昨年度の成果と課題		年度の重点目標		具体的目標	
【成果】学校運営の改善につなげるため、生徒、保護者、職員へのアンケートを実施した。生徒における規範や安全・人権に対する意識を高める取り組みを行い、おおむね成果を上げた。 【課題】教育活動の充実に向けて、アンケート結果や意見を踏まえ、更なる教育活動に取り組む。また、生徒の進路希望実現のため、特色ある教育活動および生徒の学力向上をいっそう推進し、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体でつくり上げていく。また、心身ともに健康な生活を送ることができるよう支援する。		生活習慣と学習習慣の確立を図り、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。		教職員の共通理解の推進、遅刻の防止、適正な身なり、教育相談の充実、自己管理能力の醸成	
		校内外の研修会への参加や自己研鑽により、教職員の指導力の向上を図る。		授業公開、校内研修会の充実、研修に対する教職員の意識の高揚	
		生徒の実態に即した授業内容の改善とICT機器の積極的活用によって学習意欲を育むとともに、生徒の進路実現を可能にする確かな学力を養成する。		授業評価の実施、授業改善と課題の精選、家庭学習時間確保、生徒への個別学習指導	
		総合的な探究の時間等を通じて、知識及び技能、思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力・人間性等の資質・能力を育成することで、自己と不可分な課題を発見し解決していく力を養う。		土曜活用・模擬試験・講演会・体験入学・進路情報等の充実・大学入学共通テスト受験奨励、探究学習発表会・食料科の試食会・音楽科の演奏会等の充実、活発な部活動	
分野	具体的目標	Bとする評価基準		取組の結果	評価
学校経営	安全・安心な学校づくり	生活意識調査で、学校生活に「満足」「どちらかといえば満足」が80±5%。		生活意識調査で、学校生活に「満足」「どちらかといえば満足」が83.9%	B
	進路希望の達成	3学年当初の進路希望に対する達成率が80±5%。		年度当初の進路希望に対する達成率は、7割を上回る結果であった。	B
	組織的な学校運営	職員アンケートで、「組織的な学校運営がなされている」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80±5%。		職員アンケートの結果は96%であった。運営委員会を中心に組織的な学校運営がなされた。	B

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
1 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80% 以上。	生徒アンケートの結果では「よくあてはまる」11.8%「まあまああてはまる」45.9%。合計57.7%	C	B
	基礎学力の定着	スタディーサポート・進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。	4月スタディーサポートでは55.0%、1月進研模試では62.9%がB 3 以上。	A	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。	生徒アンケートの結果では「充実していた」51.6%、「どちらかといえば充実していた」38.2%。合計89.8%	A	
2 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。	生徒アンケートの結果では「よくあてはまる」12.1%「まあまああてはまる」46.0%。合計58.0%	C	B
	基礎学力の定着	11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。	普通科53%、学究74%、食物18%、音楽31%、全体51%	B	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。	生徒アンケートの結果では「充実していた」65.0%、「どちらかと言えば充実していた」23.6%。合計88.5%	A	
3 学年	学力の伸長	①模試のGTZのB2以上の割合で、2年2月進研マーク模試から3年11月ベネ駿模試にかけて10%アップを目指す。 ②生徒のアンケートで「学力が伸びたと実感できた」とする割合を60%以上とする。	①5教科総合GTZがB2以上の割合は2年2月進研マークが24.4%→3年11月模試が31.3% ②生徒のアンケートから「よくあてはまる」が29.9%、「まあまああてはまる」が49.8%で学年全体79.7%	B	B
	適切な進路情報の提供と進路希望達成のサポート	①生徒へのアンケートで「進路情報が適切に提供されている」と感じる割合が80%以上。 ②生徒のアンケートで「先生方は質問や相談によく応じ、サポートしてくれる」の割合が80%以上。	①生徒のアンケートから「よくあてはまる」が20.7%、「まあまああてはまる」が51.7%で学年全体72.4% ②生徒のアンケート[生徒の悩みや相談に、教員は適切に対応してくれた]「よくあてはまる」が39.1%、「まあまああてはまる」が53.6%で学年全体92.7%	B	
	進路希望の達成	①大学進学における合格者を国公立45人以上、難関大合格者1名以上。 ②就職希望者の100%の内定者。 ③大学入学共通テスト出願率80%。	①国公立大学合格者47人、難関大合格者1人 ②就職希望者内定率61.5% ③大学入学共通テスト出願率78.8%	B	
学究コース	学力養成・進路実現	3学年：進研模試でGTZ B1以上が30人、国公立大学合格者が30±5人。	11月進研模試でGTZ B1以上が国数英総合19人、5教科総合15人。国公立大学合格者が20人。	B	C
		2学年：11月進研模試で英数国3教科偏差値50以上が50%、56以上が30%。	11月進研模試で英数国3教科偏差値50以上が44%、56以上が18%。		
		1学年：スタディーサポート・進研模試の3教科学力A3以上が20%。	GTZがA3以上の生徒は、7月進研模試で20%、11月模試で14%、1月模試で22%、3月スタサポで35%であった。		
	家庭学習の定着	3学年：週30時間以上の家庭学習を行う生徒が60%。	11月の調査で45%。	C	
		2学年：週16時間(平日2時間、休日3時間)以上の家庭学習を行う生徒が80%。	11月の調査で78%。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
		1学年：週23時間(平日3時間、休日4時間)以上の家庭学習を行う生徒が60%。	3月のスタディーサポートの学習時間調査で、平日3時間以上の生徒は8%であった。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
国語科	授業力の向上	生徒アンケートを実施、【授業が「わかる」「できる」】項目の「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。年間通し全員が授業公開を行い、意見交換をする。	生徒アンケートを実施した結果、「授業がわかる、できる」の項目について「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合は、1学年98.4%、2学年99.1%、3学年92.9%だった。	A	B
	学力の伸長 1 学年	1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が30%以上。学究50以上が50%以上（昨年度36%、50%）。	1月進研記述模試「国語」普通科50以上83人(41.9%) 学究 50以上33人(45.2%) 普通科では目標値を上回ったものの学究コースでは下回っている。	B	
	学力の伸長 2 学年	2月ベネッセ共通テスト模試「国語」で偏差値普通科50以上が40%以上。学究56以上が40%以上（昨年度44%、36%）。	普通科50以上：31% 学究56以上：35%	C	
	学力の伸長 3 学年	大学入学共通テスト「国語」で、平均点以上の割合が「国語」受験者の33%以上。（昨年度31.0%）。学究平均点が全国平均点以上。（昨年度－8.2点）	大学入試共通テスト「国語」本校受験者数241名 全国平均以上75名（31.1%） 学究平均点113.8点（－2.7点） 目標値をやや下回った。	B	
地理 歴史 公民科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	全員が授業公開を行い、今後の授業実践に資する意見交換を科会等で行った。	B	B
	授業力の向上	生徒アンケートの【説明が分かりやすく、内容がよく理解できる】の項目の回答で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が合わせて80%以上。	1 年生が96.3%、2年生が94.7%、3年生が98.1%、 全学年平均96.3%	A	
	学力の伸長	大学入学共通テストの各科目の平均点が全国平均点－5点以内。	全国平均と比較して、公民科目はいずれも－5点以内（倫理－2.6、政経－2.4）を達成した。地歴科目はいずれも－5点以上（世史－10.4、日史－6.7、地理－11.8）であった。	C	
数学科	学力の伸長	3学年：大学入試共通テストの数学①で、自己採点が全国平均点以上の生徒30人。 2学年：進研2月マーク模試の数学①で、偏差値50以上が70人以上。 1学年：進研1月記述模試の数学で、偏差値50以上が70人以上。	3学年：13名 2学年：56名 1学年：62名	C	B
	授業力の向上	生徒アンケートの質問②【説明が分かりやすく、内容がよく理解できる】の項目の回答で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が合わせて80%以上。	1学年：86.8% 2学年：90.2% 3学年：86.0% が「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答。	A	
理科	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して全員が授業公開を行う。	互いに授業を公開し合い、授業の改善に努めた。	B	B
	基礎学力の向上	授業に関する生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。	1 年生：80.7% 2 年生：91.7% 3 年生：94.0%	A	
	新学習指導要領への対応	観点別評価に基づいた、授業改善の取り組みを進める。	各科目を中心に情報交換を行い、授業の改善に努めた。	B	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
保健 体育科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	年間を通して公開授業を行い意見交換を盛んに行った。	B	A
	基礎体力の向上	体力テスト総合判定において、C判定以上を70%、B判定以上を30%とする（2.3年次は前年度との比較も行う）。	今年度の体力テスト総合判定においてC判定以上74.7%、B判定以上36.7%であり達成できた。（前年度比較C判定以上、B判定以上共に若干下がった）	A	
英語科	学力の伸長	1学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を2割が取得。 2学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・CEFR-JがA2.2以上（英検準2級相当）が4割以上 3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を4割以上が取得。CEFR-J A2.2レベル以上が40%以上。	・1学年：11月進研模試で偏差値50以上が72人。（46以上で72人）、英検準2級以上の取得は約1割、30人が取得（そのうち3名が2級合格）。 ・2学年：11月進研模試で偏差値50以上が43人、英検準2級以上を取得している生徒が約2割である。GTECのスコアではCEFR-JがA2.2以上であったのは全体の約2割だった。 ・3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試偏差値50以上49人。英検準2級以上、約30%の生徒が取得。準1級合格2人。CEF-J A2.2以上の生徒、約30%。	B	B
	授業力の向上	生徒アンケートの【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて8割以上。	生徒の授業アンケートの【説明が分かりやすく、内容がよく理解できる】に、「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒が、9割以上（95.1%）であった。	B	
食料科 ・家庭	専門調理技術を習得し、進路希望を実現する。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が80%。 専門教育を生かした進路の実現が70%。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が100%。専門教育を生かした進路の実現が57.9%であった。	B	A
	食の総合的実践への取り組み	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.2。	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.9であった。	A	
	生活技術の向上	家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が75%。	家庭基礎・家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が94.2%であった。	A	
音楽科 ・芸術	芸術性豊かな演奏家・音楽教育者の育成	音楽科で習得した知識や技術を生かした進路の達成率75%。	音楽科で習得した知識や技術を生かした進路の達成率72%であった。	C	B
	アンサンブル活動をとおして協働する力の向上	重唱重奏や合唱合奏の科目において、他のパートと協働し、共に音楽を創り上げることができた生徒が90%	アンケートで「重唱重奏や合唱合奏の科目において、他のパートと協働し、共に音楽を創り上げることができた」と回答した生徒が100%であった。	A	
	表現力の向上	音楽・美術・書道の科目の各選択において、生徒アンケートで「芸術の授業をとおして自己表現ができた」と答える生徒が85%	音楽・美術・書道の科目の各選択において、生徒アンケートで「芸術の授業をとおして自己表現ができた」と答える生徒が90%であった。	B	
情報科	情報活用技術の向上	生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報活用技術の向上がみられた」と答える生徒が85%。	生徒アンケートで、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒が90.2%であった。	A	A
	情報モラルの向上	生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報モラルの理解が深まった」と答える生徒が85%。	生徒アンケートで、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒が93.2%であった。	A	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
学習指導 (教務)	授業力の向上	よりよい授業実践のため、授業公開月間を年1回設定し、年間をと おして全員が授業公開を行う。 また、研修会を行い、授業改善の ための意見交換を行う。	・ほぼ全員の教諭・常勤講 師が授業公開を行った。 ・授業改善の一助として、 情報部と連携をとりながら ロイロノートの研修会を実 施した。	B	B
	基礎学力の向上	生徒に学力の伸長を感じさせられ るような授業改善を図る。 全員が授業に関する生徒アンケ ートを実施する。(よくあてはまる +ややあてはまるの割合) 『興味・関心、学ぶ意欲が高ま る』(80%以上)『説明が分かりや やすく、内容がよく理解できる』 (80%以上)『授業の進め方に工夫 がされていると感じる』(80%以 上)『予習・復習などをしっかり 行い、理解が深まるように努めて いる』(70%以上)『自分の学力が 伸びていると実感出来ている』 (70%以上)	・生徒アンケートの結果(よく あてはまる+ややあてはまる の割合 ▼は目標を下回っ た) 『興味・関心、学ぶ意欲が高 まる』(92.9%)『説明が分かり やすく、内容がよく理解でき る』(93.0%)『授業の進め方に 工夫がされていると感じる』 (93.1%)『予習・復習などを しっかり行い、理解が深まる ように努めている』(69.4%▼) 『自分の学力が伸びていると 実感出来ている』(77.1%) ・生徒の授業への満足度は高 いが、生徒に学力の伸長を感 じさせられるような授業改善 が必要である。教務部として どのような働きかけが可能か	B	
生徒指導	校則に基づき、服装・頭 髪等の指導を行う	職員の共通理解のもとに頭髪服装検 査を行い、各回の校則違反者を各学 年6人以下とする。違反者の頭髪服装 を修正させる。	頭髪服装検査を各学期始業式 及び期末考査最終日等に行 い、違反者に対し修正指導し た。ほとんどが軽微な違反だ が注意は必要である。	B	B
	交通安全指導及び各種周 知等を充実させる	交通安全について継続的に指導し、 昨年度から交通事故件数を減らす。 相談機関紹介や長期休業中の心得等 を定期的に発出し、生徒の校内・校 外の生活を充実させる。	交通事故は3件、いずれも自 転車乗車中の事故であった。 相談機関紹介や長期休業中の 心得を適宜発出し、人命に関 わる大きな事故はなかった。	B	
	安心・安全な環境で共感 的な人間関係を育む	スマートフォン等の利用に関して継 続的かつ段階的に指導する。またい じめアンケート等を活用し、人間関 係トラブルを未然に防ぎ、トラブル が起こった場合は迅速に委員会を開 催し解決に努める。	スマートフォンの校地内使用 禁止を維持するため、規律委 員の巡回等を行い、風紀維持 に努めた。いじめアンケート を年5回行い、学年で訴えを 迅速に聞き取り委員会を開催 して事後対応にあたった。	B	
進路指導	進路に関する有効な情報 提供	学年集会時での講話や学習環境整 備の内容及び配布物・刊行物の活 用等について「有効」、「ある程 度有効」とする教員・生徒・保護 者が80%	保護者は81%、1年生63%、 2年生は64%、3年生は 79%、 生徒全体で68%であった。	C	B
	進路目標の達成	・1、2年：11月進研模試の結果で国 数英の平均学習到達ゾーンのランク がB3以上の生徒が50%以上 ・3年：共通テスト出願率80%以上、 国公立大学合格45名、難関大合格者 あり、就職希望達成100%	B3以上の生徒は1年62%、 2年50%、計56%であった。 ・共通テスト出願率79%、 国公立大学合格47名、東北 大学に1名合格、就職希望 達成率は61.5%であった。	B	
保健 環境	学習環境の整備を積極的 に推進する態度の育成	生徒アンケートで「普段の清掃は まじめに取り組んだ」の回答が 80%以上。	「普段の清掃はまじめに取 組んだ」の回答は「よくあては まる」「まあまああてはまる」を 合わせて99%であった。	A	B
	心身の健康問題の早期発 見・対応による重症化防 止	生徒アンケートで「先生方は悩みを 十分聴いてくれた」「どちらかとい えば聴いてくれた」の回答が80%以 上。 日常の相談活動、関係職員との連携に より保健室頻回来室者(年10回以 上)を50人以下。	「先生方は悩みを十分聴いて くれた」「どちらかといえば聴 いてくれた」の回答は合わせて 91%であった。 日常の相談活動を関係職員と 連携して取り組んだが、保健 室頻回来室者(年10回以上)は 66人であり、50人を上回 った。	B	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
生徒会指導	学校行事で自分の役割を果たして活動する。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、どのような役割を果たし、どのような活動をしたかを具体的にあげてもらうとともに、「貢献度（自己満足度）」が90%以上。	生徒たちは自分たちの役割をよく考えて行動していた。アンケートについても生徒の満足度はどの行事も90%以上だった。	B	B
	学校行事が充実している。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、「充実している」が90%以上。	変則的ではあるが、中央祭、秋桜祭を行うことができ、アンケートについても生徒の充実度はいずれも90%以上だった。	B	
	生徒会執行部員のリーダー性の育成。	年度末に生徒会執行部へアンケートを実施し、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が80%以上。	執行部にアンケートをとった結果、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が60%であった。運営のやり方について、今後更なる工夫が必要である。	B	
図書視聴覚情報	知的好奇心を高め読書活動の充実につなげるための情報提供	生徒及び職員アンケートで「図書館や図書の情報が随時発信され、高校生活や読書活動に役立った」「どちらかと言えば役立った」の回答が80%。	生徒アンケートが54.7%にとどまった。ICT職員アンケートの図書情報利用では86.3%を示した。生徒向けの発信後の周知方法を検討する必要がある。	B	B
	視聴覚機器・機材の維持、管理とともに操作手順の習得に努め、効果的な活用を図る	職員アンケートで「時間・場所等、適材適所に応じて、情報関連機器や視聴覚機器機材の運用がなされているか」について「そう思う・どちらかと言うと思う」が90%。	ICTアンケートでは91.2%。今後もっと利便性を高めていきたい。	A	
	情報関連機器の維持、管理とともに操作法などをサポートする。また、日常の教育活動を積極的に情報発信する。		配信など、他分掌の業務を請け負うことが多く行事が重なると重労働であった。各分掌で処理できるように研修を充実したい。		
総務	PTA活動の活性化及びPTA総会等の参加率向上	保護者の25%以上がPTA関連行事に参加。	1年保護者対象進路講演会は35.8%、2年保護者対象進路講演会は44.2%の参加率となった。PTA総会の参加者は162名にとどまった。中央祭や秋桜祭では多く役員の方々にお手伝いいただいた。	B	A
	PTA役員による中央グッズの企画、販売	学校への関心をより多くの人に持ってもらうことを目的に、中央グッズの企画と保護者への周知を積極的に行い、昨年度より多くの人に購入していただく。	中央祭と秋桜祭での中央グッズ販売額は昨年度比4倍増となった。中央祭観覧保護者数1280人、秋桜祭観覧保護者数486人	A	
人権教育同和	人権教育、同和教育、男女平等教育についての共通理解を深める	各種研修会等に参加し、研修内容を教職員に報告、周知することなどにより、人権教育、同和教育、男女平等教育についての全職員の共通理解を深める。職員アンケートを実施し「研修会報告によって理解が深まった」との回答が80±5%。	「越佐にんげん学校」を中心とした各種研修に、委員を中心として参加した。行った研修内容を全体で共有する機会をなかなか持つことができなかった。	C	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
教育 男女 平等 教育 推進	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する意識向上をはかる	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する啓発を目指し、校内で全校生徒及び教職員対象の講演会を実施し、全体的な意識の向上を目指す。講演会后、生徒及び教職員にアンケートを実施する。生徒アンケートにおける「講演の内容が理解できた」との回答が85±5%。職員アンケートにおける「講演会によって理解が深まった」との回答が80±5%。	今年度は同和教育に関する講演会を行い、講演会実施後のアンケート結果は以下の通りであった。 生徒アンケートにおける「講演の内容が理解できた」との回答が94.7%、職員アンケートにおける「講演会によって理解が深まった」との回答が86%であった。	A	B

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
特別支援教育推進	生徒への支援、教員間の情報交換と共通理解	スクールカウンセラー等との連携や実態把握リストの作成により、悩みを抱える生徒の情報や対応を職員で共有し、「生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」とする職員の割合が75%。	「生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」とする職員が100%であった。	A	A
	個別の指導計画の作成と個別指導	支援が必要な生徒に対して、担任・学年主任・養護教諭・コーディネーター・スクールカウンセラー・管理職等と情報共有しながら、指導方針を決め組織的に対応する。また必要に応じて個別の指導計画を作成し指導する。	「情報共有は十分だった。適切であった。」もしくは「どちらかと言えば十分だった。適切だった。」とする職員が100%であった。	A	
成果と課題	生徒の進路実現に向け、生徒の学力向上や特色ある教育活動を推進して成果を上げた。次年度も、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で醸成する。 また、職員研修を行い、生徒の規範や安全・生命・人権に対する意識を高めることにつなげた。いじめ問題に対しては、全職員の共通理解のもと、組織的な対応ができた。 スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実に取り組んだ。今後も生徒が心身ともに健康な生活を送ることができるよう組織的な対応を継続する。			総合評価	
				B	